

社会資本総合整備計画
都市再生整備計画 事後評価シート
中央通り金燈籠地区

平成26年3月

栃木県大田原市

※記入にあたっての留意事項(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

本様式の記入にあたって、下記の点に留意してください。

1. モニタリング(一部の結果)・事後評価・フォローアップの3段階について、記入欄を色分けで区分しています。それぞれの結果を該当欄に記入してください。

段 階	内 容	時 期	記入欄の 色分け
《第一段階》モニタリング	事業期間中に、実施状況、数値目標の達成状況、効果発現の状況を確認する	交付期間中の 任意の時期	
《第二段階》事後評価	評価項目の計測（見込みの値でも可）、効果発現に関わる要因、今後のまちづくり方策等を整理する	最終年度	
《第三段階》フォローアップ	事後評価時に「見込みの値」としたものに対して、事業終了後に、確定した数値で再度整理する	原則、交付終了の翌年度	

2. 記入項目の詳細や記入例については「事後評価シート作成の手引き」を参照してください。
3. 記入欄が不足する場合には、適宜、欄(枠)を拡張するなどして記入して下さい。
4. 国への提出後、必要に応じて再提出等のために修正を行う場合は、従前の記載内容は削除せず、消し線を用いて下さい

例1) 数値等の軽微な修正

【修正前】 ○○整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2) 文章の修正

【修正前】 …するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していくものとする。

【修正後】 特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していくものとする。

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県	市町村名	大田原市	地区名	中央通り金燈籠地区			面積	90ha
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	4,201.013百万円	国費率	0.45		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	提案事業	道路(旧市道108号線、旧市道107号線、旧市道106号線、旧市道117号線、旧市道116号線、旧市道105号線、旧市道2-3号線)、公園(多目的公園整備)、地域生活基盤施設(金燈籠ポケットパーク)						
	基幹事業	提案事業	まちづくり活動推進事業(まちなか学校事業、まちなか保健室事業)						
	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(市道108号線、市道107号線、市道106号線、市道117号線、市道116号線、市道105号線、市道2-3号線) 地域生活基盤施設(荒町駐車場) 高質空間形成施設(洞泉院横丁:回遊路整備) 高次都市施設(地域交流センター:屋台会館)	【道路】:(市道中央203号線、市道中央102号線、市道中央103号線、市道山の手104号線、市道山の手105号線、市道住吉町101号線、市道元町中央線)へ名称変更のため削除。 【地域生活基盤施設】:別の事業による駐車場整備を行ったため削除。 【高質空間形成施設】:事業計画の見直しにより事業を削除。 【高次都市施設】:諸般の事情により、計画期間内の事業着手が見込めないため削除。					中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	
	提案事業	地域創造支援事業(空き店舗活用事業:チャレンジ、アンテナショップ)	市(商工観光課)が商工会議所と連携して空き店舗を活用する事業を行っているほか、中心市街地活性化協議会においても同様の事業を行っているため、都市再生整備計画での空き店舗活用事業は実施しなかった。					空き店舗数の減少に関連する事業であったが、市(商工観光課)及び商工会議所により空き店舗を活用する事業を実施していることから、指標及び数値目標は据え置く。	
新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道中央203号線、市道中央102号線、市道中央103号線、市道山の手104号線、市道山の手105号線、市道住吉町101号線、市道元町中央線) 道路(市道中央105号線:回遊路整備、市道住吉町202号線:回遊路整備、市道中央石林線:回遊路整備) 地域生活基盤施設(荒町ポケットパーク) 高質空間形成施設(西法寺横丁:回遊路整備、那須庁舎横丁:回遊路整備) 高次都市施設(荒町遊歩道:立体遊歩道、まちなか子育て世代活動支援施設) 土地区画整理事業(金燈籠交差点地区(G・Hブロック)土地区画整理事業)	【道路】:市道名の再編より追加。 【道路】:回遊性を向上し、拠点を強化する必要性が生じたため追加。 【地域生活基盤施設】:市街地再開発事業(再開発ビル)と一体的に周辺の賑わいの創出や拠点強化の必要性が生じたため追加。 【高質空間形成施設】:市街地再開発事業と一体的に周辺回遊路を整備する必要性が生じたため追加。 【高次都市施設】:拠点を強化する必要性が生じ、利用者の安全性確保や行動が制限される子育て世代をサポートするため追加。 【土地区画整理事業】:都市計画道路の整備とともに、沿道区域の宅地の集約化・整形化を進め、土地の有効高度利用を図る必要性が生じたため追加。					中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	
	提案事業	地域創造支援事業(中央通り地区街並み形成助成事業、金燈籠交差点地区(G・Hブロック)土地区画整理事業) 事業活用調査(土地区画整理事業関連調査等、都市再生整備計画事後評価等)	【地域創造支援事業】:都市計画道路の幅幅に併せ、建物の建て替えや改装する際に、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並み形成の促進を図るため追加。 【事業活用調査】:都市計画道路の整備とともに、沿道区域の宅地の集約化・整形化を進め、土地の有効高度利用を図るため、土地区画整理事業の事前調査等をする必要性が生じたため追加。					中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	
交付期間の変更	当初	平成21年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—			
変更	—		—		—				

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	通行人数の増加	人/日	2,301	H20	3,000	H25		2,471	△	あり ○	道路(回遊路)の整備や市街地再開発事業(再開発ビルのオープン)により、歩行者については大幅に増加したが、自転車の通行が減少していることから、目標値に至っていない。通行人数の増加につながる事業が平成25年度末に完了することから、中心市街地の賑わいを創出することで、通行人数の増加に期待したい。	平成26年9月
指標2	空き店舗数の減少	件	63	H20	55	H25		53	○	あり なし	まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業(再開発ビルや街路)をしたことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで、空き店舗数の減少に貢献した。	平成26年9月
指標3	避難場所までの到達時間の短縮	分	10	H20	2	H25		2	○	あり なし	多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、避難場所までの到達時間が大幅に改善することができた。	—

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	まちづくり活動への住民参加人数	人	—	—				2,669			まちなか学校事業等を開催したことにより、地域交流や市民活動等を活性化させることに貢献した。	平成26年4月
その他の数値指標2	中心市街地における避難場所周辺区域の拡大	%	48.1	H20				78.9			多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、中心市街地における避難場所周辺区域が拡大したことで、中心市街地の防災機能が向上した。	—

4) 定性的な効果発現状況
 金燈籠ポケットパークを整備したことにより、地元のアマチュアが清掃活動をしている等、まちづくりへの意識向上に貢献している。
 大田原商店連盟による「おたわら賑わいレシートまつり」を開催したことで、トコトコ大田原周辺の商店街において買い物をする人が増えたことから、まちなかの集客増に貢献している。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	実施状況	実施できた	実施できなかった	実施できた	実施できなかった
住民参加プロセス	中央通り地区街並み形成助成事業における市民参加	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●		【中央通り地区街並み形成助成事業における市民参加】 今後も「中央通り地区街並み形成助成事業」の実施を予定しており、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みを形成していきたい。	
	まちなか学校・まちなか保健室事業における市民参加	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			【まちなか学校・まちなか保健室事業における市民参加】 平成26年1月～3月においては、市街地再開発事業にて整備したトコトコ大田原の3階会議室等を利用した「まちなか学校・まちなか保健室事業」を開催し、参加者から好評であったことから、今後も「まちなか学校・まちなか保健室事業」を実施していきたい。	
	空き店舗活用事業に関わる市民参加	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		●	商工会議所や中心市街地活性化協議会とさらに連携を強化し空き店舗を活用できるような事業の実施を検討するほか、市(商工観光課)で商工会議所と連携しながら平成24年度より、実施している「大田原市起業再出発支援事業」を継続させ、空き店舗活用に向けた取り組みを行ってきたい。	
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた				
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				

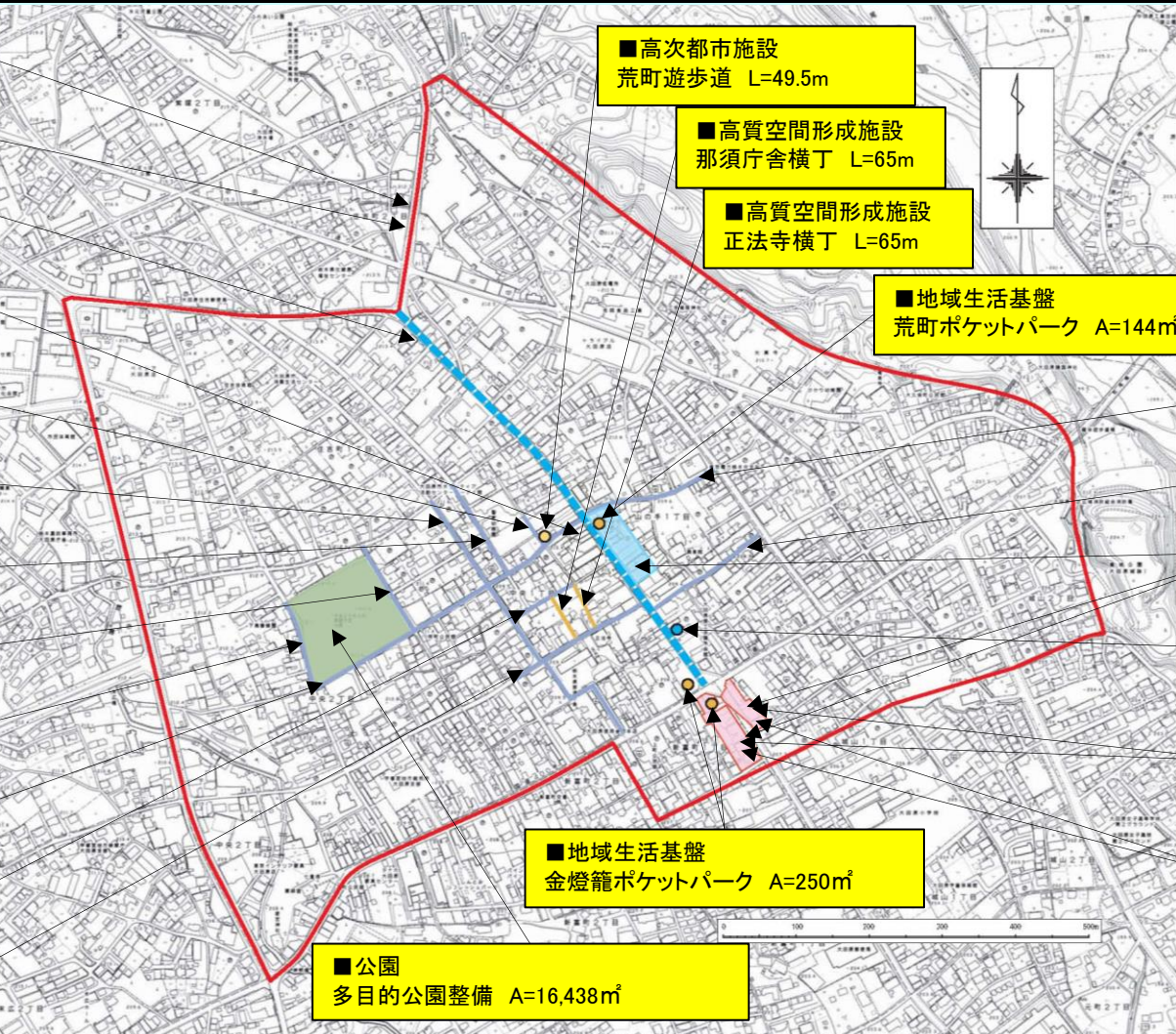
様式2-2 地区の概要

大田原中央通り金燈籠地区(栃木県大田原市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 中心市街地活性化に寄与する市街地の整備 目標1: 賑わいの創出に寄与する施設や回遊路を整備して人を集め、人の流れをつくる 目標2: 地域交流・市民活動等を活性化させる 目標3: 中心市街地の防災機能を向上させる	通行人数の増加	単位: 人/日	2,301 H20	3,000 H25	2,471 H25
	空き店舗数の減少	単位: 件	63 H20	55 H25	53 H25
	避難場所までの到達時間の短縮	単位: 分	10 H20	2 H25	2 H25
	まちづくり活動への住民参加人数	単位: 人			2,669 H25
	中心市街地における避難場所周辺区域の拡大	単位: %	48.1 H20		78.9 H25



- 地域創造支援事業
空き店舗活用事業
- 事業活用調査
都市再生整備計画事後評価等
- 地域創造支援事業
中央通り地区街並み形成助成事業
- 高次都市施設
まちなか子育て世代活動支援施設
A=2,108.02㎡
- 道路
市道中央105号線 L=40m
- 道路
市道住吉町101号線 L=440m
- 道路
市道住吉町202号線 L=130m
- 道路
市道元町中央線 L=121m
- 道路
市道中央石林線 L=125m
- 道路
市道中央203号線 L=430m
- 道路
市道中央102号線 L=100m
- 道路
市道中央103号線 L=200m



- 関連事業
- 市街地再開発事業
 - 屋台会館整備事業
 - 暮らしにぎわい再生事業
 - 都市計画3・4・2西那須野線
 - 都市計画3・3・2大田原野崎線
 - 市営バス運行事業



凡例

- 基幹事業
- 提案事業

まちの課題の変化

- ・道路(回遊路)の整備や市街地再開発事業(再開発ビルのオープン)により、中心市街地内の回遊性を高めたことで、歩行者が大幅に増加した。
- ・まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業を整備したことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで空き店舗数が減少した。
- ・防災機能を持った多目的公園が整備されたことにより、中心市街地内に避難場所が確保され、避難場所までの到達時間が短縮されたことから防災機能が向上した。
- ・今回整備された道路は特定の範囲で行われたため、都市再生整備事業外の道路との格差が生じた。
- ・まちなか学校等により、中心市街地の賑わいの創出や歩行者の通行量が増加したが、それらをどう継続していくかの取組みが必要になった。
- ・多目的公園(避難場所)が整備されたことにより、災害時の避難経路の確認や指定避難場所の周知が必要になった。また、多目的公園の防災機能活用方法についても周知が必要になった。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・道路整備、市街地再開発事業等の事業により、中心市街地の賑わい創出に寄与する施設や回遊路を整備したため、今後はそれらを活用(ソフト事業)し、地域交流・市民活動を活発化させることで、中心市街地の賑わい創出を図る。
- ・中心市街地内に避難場所が整備されたが、災害時に円滑に避難ができるよう、市民の防災に対する意識の向上を図る。
- ・城下町・宿場町として個性的な魅力的な街並みの形成を図る。
- ・再開発ビルの商業施設及び公共公益施設の利用者を増やし、まちなかの集客が増えるよう、イベントの開催や広報活動に努める。
- ・多目的公園は地域交流や市民活動等を活発化させるためのイベントを行う。
- ・災害時の対応(行動手順)と防災機能の活用方法を定着させることで市民の防災に対する意識の向上を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		指標3「避難所までの到達時間の短縮」	指標3「避難場所までの到達時間の短縮」	指標名の変更について、地域防災計画との整合性を合わせるため、「避難所」から「避難場所」に変更した。(名称の変更のみで計測方法等の変更ではない。)
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道108号線(回遊路整備)	70	L=430m	—	—	市道中央203号線(回遊路整備)へ名称が変更。	影響なし		
道路	市道107号線(回遊路整備)	20	L=150m	—	—	市道中央102号線(回遊路整備)へ名称が変更。	影響なし		
道路	市道106号線(回遊路整備)	50	L=280m	—	—	市道中央103号線(回遊路整備)へ名称が変更。	影響なし		
道路	市道117号線(回遊路整備)	30	L=190m	—	—	市道山の手104号線(回遊路整備)へ名称が変更。	影響なし		
道路	市道116号線(回遊路整備)	22	L=180m	—	—	市道山の手105号線(回遊路整備)へ名称が変更。	影響なし		
道路	市道105号線(回遊路整備)	70	L=440m	—	—	市道住吉町101号線(回遊路整備)へ名称が変更。	影響なし		
道路	市道2-3号線(回遊路整備)	25	L=260m	—	—	市道元町中央線(回遊路整備)へ名称が変更。	影響なし		
道路	市道中央203号線(回遊路整備)	—	—	156	L=430m	・市道108号線(回遊路整備)の名称が変更。 ・交差点部を拡幅する必要が生じ、事業効果の早期化を図るため、増額変更。	影響なし	●	
道路	市道中央102号線(回遊路整備)	—	—	20	L=100m	・市道107号線(回遊路整備)の名称が変更。 ・回遊路として整備を予定した路線の一部が、市街地再開発事業の区域に組み込まれたため延長を縮小。	影響なし	●	
道路	市道中央103号線(回遊路整備)	—	—	280	L=200m	・市道106号線(回遊路整備)の名称が変更。 ・他事業(水道・下水道)が施行されることとなったため、計画期間内の完了が見込めないため延長を縮小。	影響なし	●	
道路	市道中央105号線(回遊路整備)	—	—	28	L=40m	・回遊性を向上し、拠点を強化する必要が生じたため新規追加。 ・都市計画道路3・3・2号線の遅れにより、計画期間内の完了が見込めないため延長を縮小。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
道路	市道山の手104号線(回遊路整備)	—	—	191	L=190m	・市道117号線(回遊路整備)の名称が変更。 ・交差点部を拡幅する必要が生じ、事業効果の早期化を図るため、増額変更。	影響なし	●	
道路	市道山の手105号線(回遊路整備)	—	—	14	L=180m	・市道116号線(回遊路整備)の名称が変更。 ・事業費の精査により減額変更。	影響なし	●	
道路	市道住吉町101号線(回遊路整備)	—	—	70	L=440m	市道105号線(回遊路整備)の名称が変更。	影響なし	●	
道路	市道住吉町202号線(回遊路整備)	—	—	28	L=130m	回遊性を向上し、拠点を強化する必要が生じたため新規追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	

道路	市道元町中央線(回遊路整備)	—	—	25	L=121m	・市道2-3号線(回遊路整備)の名称が変更。 ・他事業(水道・下水道)が施行されることとなったため、計画期間内の完了が見込めないため延長を縮小。	影響なし	●	
道路	市道中央石林線(回遊路整備)	—	—	23	L=125m	回遊性を向上し、拠点を強化する必要が生じたため新規追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
公園	多目的公園整備	1,078	A=16,438㎡	1,078	A=16,438㎡	なし	—	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	荒町駐車場	40	A=2,200㎡	—	—	別の事業による駐車場整備を行ったため削除。	影響なし		
地域生活基盤施設	金燈籠ポケットパーク	116	A=1,100㎡	45	A=250㎡	事業用地の確保ができず、事業を縮小したため、事業費を減額変更。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	荒町ポケットパーク	—	—	25	A=144㎡	市街地再開発事業(再開発ビル)と一体的に周辺の賑わいを創出する必要性があり、拠点強化の必要性が生じたため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	洞泉院横丁(回遊路整備)	10	L=130m	—	—	事業計画を見直したことにより削除。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		
高質空間形成施設	正法寺横丁(回遊路整備)	—	—	40	L=65m	市街地再開発事業と一体的に周辺回遊路を整備する必要が生じたため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	那須庁舎横丁(回遊路整備)	—	—	5	L=65m	市街地再開発事業と一体的に周辺回遊路を整備する必要が生じたため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高次都市施設	地域交流センター(屋台会館)	798	A=1,200㎡	—	—	諸般の事情により、計画期間内の事業着手が見込めないため削除。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		
高次都市施設	荒町遊歩道(立体遊歩道)	—	—	212	L=49.5m	拠点を強化する必要性が生じ、利用者の安全性確保のため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高次都市施設	まちなか子育て世代活動支援施設	—	—	1,079	A=2,108.02㎡	・拠点を施設する必要性が生じたため追加。 ・行動が制限される子育て世代をサポートすることで、賑わいの創出や人にやさしい街なか居住の推進(中心市街地活性化基本計画の目標)を目指すため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)	金燈籠交差点地区(G・Hブロック)土地区画整理事業	—	—	39	A=5,014.05㎡	都市計画道路の整備とともに、沿道区域の宅地の集約化・整形化を進め、土地の有効高度利用を図る必要が生じたため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	空き店舗活用事業(チャレンジ、アンテナショップ)	40	中心市街地に点在する空き店舗の活用。	—	—	事業の削除: 商工会議所において、中心市街地における空き店舗の活用を実施しており、市が商工会議所と連携し支援を行っていたため、都市再生整備計画での空き店舗活用事業は実施しなかった。	空き店舗数の減少に関連する事業であったが、市(商工観光課)及び商工会議所により空き店舗を活用することから、指標及び数値目標は据え置く。		
	中央通り地区街並み形成助成事業	—	—	30	城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並み形成の促進を図るため、新築・増築・改装又は修景等を行うものに対して、その経費の一部を助成する。	都市計画道路の拡幅に併せ、建物の建て替えや改装する際に、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並み形成の促進を図るため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
	金燈籠交差点地区(G・Hブロック)土地区画整理事業	—	—	206	A=5,014.05㎡	都市計画道路の整備とともに、沿道区域の宅地の集約化・整形化を進め、土地の有効高度利用を図る必要が生じたため追加。	中心市街地の賑わい創出に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●

事業活用調査	土地区画整理事業関連調査等	—	—	40	沿道区域の宅地の集約化・整形化を進め、土地の有効高度利用を図るための事前調査。	都市計画道路の整備とともに、沿道区域の宅地の集約化・整形化を進め、土地の有効高度利用を図るため追加。	影響なし	●	
	都市再生整備計画事後評価事業	—	—	5	整備計画期間の最終年度に事後評価を行い、事業の効果を測定・評価を行う。	都市再生整備計画の事後評価を行うため追加。	影響なし	●	
まちづくり活動推進事業	まちなか学校事業	14	中心市街地の空き店舗や既存店舗等を利用し、現在活躍している店舗経営者等による講座を開催し、市内だけでなく外部からも集客することで中心市街地の活性化に貢献する。	14	中心市街地の空き店舗や既存店舗等を利用し、現在活躍している店舗経営者等による講座を開催し、市内だけでなく外部からも集客することで中心市街地の活性化に貢献する。	なし	—	●	
	まちなか保健室事業	5	地域にある国際医療福祉大学と連携を図り、空き店舗等を利用し、誰でも気軽に立ち寄れる相談所として健康づくりに向けた支援を行う。	5	地域にある国際医療福祉大学と連携を図り、空き店舗等を利用し、誰でも気軽に立ち寄れる相談所として健康づくりに向けた支援を行う。	なし	—	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
市街地再開発事業		荒町通り(中央1)	2,900	3,165	平成21年度～平成26年度	平成21年度～平成26年度	平成26年度に完了予定である。	
屋台会館整備事業		城山1丁目	—	—	—	—	事業の実施については未定である。	
暮らし・にぎわい再生事業		中央1 他	—	1,800	—	平成22年度～平成26年度	事業は9割程度完了し、平成26年度に完了予定である。	
都市計画3・4・2西那須野線		中央1、山の手1、住吉1地内	4,000	4,000	平成21年度～平成27年度	平成21年度～平成27年度	当初の予定より遅れているものの、事業は進んでいる。	県事業。
都市計画3・3・2大田原野崎線		中央1・2丁目地内	2,320	2,610	平成21年度～平成27年度	平成21年度～平成27年度	当初の予定より遅れているものの、事業は進んでいる。	
市営バス運行事業		市内一円	15	15	—	年間(毎年)	市営バス運行事業は毎年実施されている。	
市内循環バス運行実験		市内(中央・美原他)	45	50	平成23年度～平成25年度	平成24年度～平成25年度	平成25年度に完了。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	確定見込み	数値	事後評価	あり	なし	
指標1	通行人数の増加	人/日	平成25年10月に実施した、中心市街地8箇所における休日9時間(9時~18時)の歩行者及び自転車交通量の合計を通行人数とし、評価値(見込み値)とする。	4,354	H11	2,301	H20	3,000	H25	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	●	2,471	事後評価		
指標2	空き店舗数の減少	件	平成25年5月時点の空き店舗数を評価値(見込み値)とする。			63	H20	55	H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	53	事後評価		
指標3	避難場所までの到達時間の短縮	分	従前の起点(既存避難場所間の中間地点)から最寄りの避難場所までの到達時間を計測(図上求測に基づく避難場所までの到達時間を計測)			10	H20	2	H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	2	事後評価		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値に至っていないが、近年の傾向よりは改善している。また、平成25年10月の数値評価(見込み)段階では、通行人数の増加に影響を与える再開発ビル「トココ大田原」のオープンが商業施設(1階)のみであるなど、中心市街地の通行人数に与える事業が未完了であったため、平成25年度末に事業が完了した後、1年以内に達成する見込みは高い。	
指標2	まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業(再開発ビル)を整備したことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで空き店舗数の減少に貢献しているものと考えられる。	
指標3	防災機能をもった多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、避難場所までの到達時間が大幅に改善することができ、中心市街地内の防災機能が向上した。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み ●		
その他の 数値指標1	まちづくり活動への住民 参加人数	人	平成21年度から5年間の住民参加活 動を整理し、各活動の回数と住民参 加数を集計する。 各住民参加活動の総参加数の延人 数を評価値とする。			—	—	モニタリング			2,669	「まちなか学校」等の参加者や 「中心市街地活性化協議会」活 動に係る住民参加人数を把握 し、整備方針である『地域交流や 市民活動等を活性化させるため の整備』に向けた効果を測る。
								事後評価	確定 見込み ●			
その他の 数値指標2	中心市街地における避難 場所周辺区域の拡大	%	避難場所(多目的広場を含める)から 500m以内を避難場所周辺区域とし、 中心市街地全体における避難場所周 辺区域の割合を測定する。 図上求測に基づく避難場所周辺区域 の面積を中心市街地面積で割返すこ とにより、評価値とする。			48.1	H20	モニタリング			78.9	指標3「避難場所までの到達時間 の短縮」を補完し、整備方針「災 害時の避難場所を確保するため の整備」の効果を測る。
								事後評価	確定 ● 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

金燈籠ポケットパークを整備したことにより、地元の愛護会が清掃活動をしている等、まちづくりへの意識向上に貢献している。
大田原商店連盟による「おおたわら賑わいレシートまつり」を開催したことで、トコト大田原周辺の商店街において買い物をする人が増えたことから、まちなかの集客増に貢献している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中央通り地区街並み形成助成事業における市民参加	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> ● 【実施頻度】計40件 【実施時期】平成21年度～平成25年度 【実施結果】助成金額は、合計19,393,000円となり、店舗所有以外(住宅)の方も積極的に助成を利用する等、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みの形成を図っている。その中で「街並みづくり協定書」に沿って建てられた建築物(助成を利用した建築物等)から、市民投票により市民景観賞を選定する「第1回 みんなで選ぶ中央通り街並み景観コンクール」を実施(実施主体は大田原市中心市街地活性化協議会)している。景観に対する意識を高め、景観形成に参画することを目的とし、景観を親に中央通りに人が訪れたり市外の方も景観コンクールに参加する等、助成事業により中心市街地の魅力を伝えることができた。 	今後も「中央通り地区街並み形成助成事業」の実施を予定しており、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みを形成していきたい。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
空き店舗活用事業に関わる市民参加	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> ● 予定したが、実施しなかった。 理由:市(商工観光課)が商工会議所と連携して空き店舗を活用する事業を行っているほか、中心市街地活性化協議会においても同様の事業を行っているため、都市再生整備計画での空き店舗活用事業は予定したが実施しなかった。 	商工会議所や中心市街地活性化協議会とさらに連携を強化し空き店舗を活用できるような事業の実施を検討するほか、市(商工観光課)で商工会議所と連携しながら平成24年度より、実施している「大田原市起業再出発支援事業」を継続させ、空き店舗活用に向けた取り組みを行ってきたい。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
まちなか学校・まちなか保健室事業における市民参加	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> ● 【実施頻度】計15回 【実施時期】平成21年度～平成25年度 【実施結果】「まちなか健康ウォーキング講座(参加者:55人)」、「まちなか創作ダンス講座(参加者:84人)」、「まちなか星空教室(参加者:120人)」などを実施し、「健康づくり」に関する意識啓発や「学び」「交流」の場を提供することで、まちなかの賑わいの創出につながった。 	平成26年1月～3月においては、市街地再開発事業にて整備したトコトコ大田原の3階会議室等を利用した「まちなか学校・まちなか保健室事業」を開催し、参加者から好評であったことから、今後も「まちなか学校・まちなか保健室事業」を実施予定である。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			

予定したが実施できなかった (理由)			
-----------------------	--	--	--

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	建設部 道路建設課、道路維持課、都市計画課、 建築指導課、まちづくり推進課 総合政策部 危機管理課 保健福祉部 子ども幸福課 市民生活部 生活環境課 産業振興部 商工観光課	平成25年11月21日(木)	建設部まちづくり推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1	指標2	指標3	その他の数値指標1	その他の数値指標2	
指標名		通行人数の増加	空き店舗数の減少	避難場所までの到達時間の短縮	まちづくり活動への住民参加人数	中心市街地における避難場所周辺区域の拡大	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:市道中央203号線、市道中央102号線、市道中央103号線、市道中央105号線、市道山の手104号線、市道山の手105号線、市道住吉町101号線、市道住吉町202号線、市道元町中央線、市道中央石林線	◎	道路(回遊路)の整備や市街地再開発事業(再開発ビルのオープン)により、歩行者が大幅に増加したが、平成25年10月の評価値(見込み値)は目標値には至っていない。通行人数の増加につながる事業が平成25年度末に完了したため、今後は中心市街地の賑わい創出や通行人数の増加に努めていきたい。	—	まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業(再開発ビルや街路)をしたことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで空き店舗数の減少に貢献しているものと考えられる。	○	多目的公園が中心市街地内に整備されたことにより、避難場所までの到達時間が大幅に改善することができた。今後は、都市計画道路の整備完了をすることで、さらに防災機能を高めたい。
	公園:多目的公園整備	○		—		◎	
	地域生活基盤施設:金燈籠ポケットパーク、荒町ポケットパーク	○		—		—	
	高質空間形成施設:正法寺横丁、那須庁舎横丁	◎		—		—	
	高次都市施設:荒町遊歩道、まちなか子育て世代活動支援施設	○		—		—	
	土地区画整理事業:金燈籠交差点地区(G・Hブロック)土地区画整理事業	△		—		—	
提案事業	地域創造支援事業:空き店舗活用事業(チャレンジ、アンテナショップ)	—		—		—	
	地域創造支援事業:中央通り地区街並み形成助成事業	◎		—		—	
	地域創造支援事業:金燈籠交差点地区(G・Hブロック)土地区画整理事業	—		—		○	
	事業活用調査:土地区画整理事業関連調査等、都市再生整備計画事後評価事業	—		—		—	
	まちづくり活動推進事業:まちなか学校事業、まちなか保健室事業	—		○		◎	
関連事業	市街地再開発事業	◎		○		—	
	屋台会館整備事業	—		△		—	
	暮らし・にぎわい再生事業	△		—		—	
	都市計画3・4・2西那須野線	△		—		△	
	都市計画3・3・2大田原野崎線	△		—		△	
	市営バス運行事業	◎		—		—	
市内循環バス運行実験	○	—	—	—			

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	中心市街地の賑わい創出に寄与する施設や回遊路を整備したため、今後はそれらを活用(ソフト事業)し、地域交流・市民活動を活発化させることで、中心市街地の賑わい創出を図り、通行人数の増加に努めていきたい。	今後もまちなか学校、まちなか保健室の開催や、「与一まつり」、「屋台まつり」、「一店逸品」等の既存イベントを充実させることにより、中心市街地の賑わいを創出することで、空き店舗数の減少につなげていきたい。	今後も防災機能を高めるため、円滑に避難できるように事業の早期完了(都市計画道路)に努め、また、避難訓練の実施や避難場所の周知等、市民の防災意識の向上についても努めていきたい。	今後も引き続き、まちなか学校、まちなか保健室を開催することで地域交流や市民活動等を活性化していきたい。	避難場所周辺区域の拡大が達成されたため、今後は避難経路や防災機能の活用方法を周知することで、市民の防災に対する意識の向上に努めていきたい。
-------	---	--	---	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	建設部 道路建設課、道路維持課、都市計画課、 建築指導課、まちづくり推進課 総合政策部 危機管理課 保健福祉部 子ども幸福課 市民生活部 生活環境課 産業振興部 商工観光課	平成25年12月5日(木) 平成26年2月12日(水)	建設部まちづくり推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地は、年々商店数や居住人口及び車両等の通行量が減少し、通称シャッター通りと揶揄されるほどの状態になり、空洞化が目立っている。	<ul style="list-style-type: none"> 道路(回遊路)の整備や市街地再開発事業(再開発ビルのオープン)により、中心市街地内の回遊性を高めたことで、歩行者が大幅に増加した。 まちなか学校事業の開催や市街地再開発事業(再開発ビル)をしたことにより、中心市街地の賑わいを創出したことで空き店舗数が減少した。 	歩行者の通行量は大幅に増加(平成20年度:787→平成25年度:1,245)したものの、自転車の通行量は減少(平成20年度:1,514→平成25年度:1,226)した影響により、通行人数の目標値(3,000人)には至らなかった。通行人数の増加を図るため、中心市街地の賑わい創出に向けた活動支援等が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 今回整備された道路は特定の範囲で行われたため、都市再生整備計画事業外の道路との格差が生じた。 まちなか学校等のソフト事業により、中心市街地の賑わい創出や歩行者の通行量が増加したが、それらをどう継続していくかの取組みが必要になった。 防災機能を持った多目的公園が整備されたことにより、災害時の避難経路の確認や指定避難場所の周知が必要になった。また、防災機能の活用方法についても周知が必要である。
中心市街地は建物密集地であるにもかかわらずエリア内には避難場所がなく、防災機能の面で脆弱である。現在は周辺の学校や体育館等を避難場所として設定している。	<ul style="list-style-type: none"> 防災機能を持った多目的公園が整備されたことにより、中心市街地内に避難場所が確保された。 中心市街地内に多目的公園が整備されたことにより、避難場所までの到達時間が短縮され、防災機能が向上した。 	多目的公園は地域交流や市民活動等を活発化させていくための効果もあるため、イベントの開催や市民活動の場としての活用が必要である。また、円滑に避難ができるよう都市計画道路の早期完了が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	地域交流・市民活動の活性化	道路整備、市街地再開発事業等の事業により、中心市街地の賑わい創出に寄与する施設や回遊路を整備したため、今後はそれらを活用(ソフト事業)し、地域交流・市民活動を活発化させることで、中心市街地の賑わい創出を図る。	・まちづくり活動推進事業(再開発ビルや多目的公園を活用した、まちなか学校・まちなか保健室等の開催) ・空き店舗活用事業(大田原市起業再出発支援事業等) ・既存イベントの充実(与一まつり、屋台まつり、一店逸品等)
	市民の防災意識の向上	中心市街地内に多目的公園が整備され、避難場所までの到達時間が短縮されたが、災害時に円滑に避難ができるように、市民の防災に対する意識の向上を図る。	・避難訓練の実施(多目的公園を活用) ・広報等による避難場所の周知(広報おたわら、市HPを活用)

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	中心市街地内の通行人数の増加	・城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みの形成を図る。 ・再開発ビルの商業施設及び公共公益施設の利用者を増やし、まちなかの集客が増えるよう、イベントの開催や広報活動に努める。	・個性的で魅力的な街並みの形成(中央通り地区街並み形成助成事業) ・市道整備の継続 ・イベント開催等のソフト事業の実施(「おたわら賑わいシートまつり」等)
	地域交流・市民活動の活性化・市民の防災意識の向上	・地域交流や市民活動等を活発化させるためのイベントを行う。 ・円滑に避難ができるよう都市計画道路の早期完了に努める。 ・災害時の対応(行動手順)と防災機能の活用方法を定着させることで市民の防災に対する意識の向上を図る。	・イベント等の開催 ・都市計画道路の整備の推進 ・防災講習会及び多目的公園の防災機能を活用した体験学習会の開催

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画					
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	通行人数の増加	人/日	2,301	H20	3,000	H25	確定 見込み	●	2,471	△	あり なし	●	→	平成26年9月	従前値及び評価値と同様の手法により計測する。	
指標2	空き店舗数の減少	件	63	H20	55	H25	確定 見込み	●	53	○	あり なし	●	→	平成26年9月	評価値と同様の手法により計測する。	
指標3	避難場所までの到達時間の短縮	分	10	H20	2	H25	確定 見込み	●	2	○	あり なし	●	→			
指標4				H		H	確定 見込み				あり なし	●	→			
指標5				H		H	確定 見込み				あり なし	●	→			
その他の数値指標1	まちづくり活動への住民参加人数	人	—	H			確定 見込み	●	2,669				→	平成26年4月	平成26年3月末までの各住民参加活動総参加者の延人数を確定値とする。	
その他の数値指標2	中心市街地における避難場所周辺区域の拡大	%	48.1	H20			確定 見込み	●	78.9				→			
その他の数値指標3				H			確定 見込み						→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・「大田原西地区都市再生整備計画」(平成26年度～平成30年度): 予定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	・市のホームページに掲載	平成26年1月6日～1月31日	平成26年1月6日～1月31日	担当課へ持参、郵送、FAX、電子メール	建設部まちづくり推進課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報、市HPにより、住民に事業評価原案の公表をする旨を掲載	平成26年1月6日～1月31日	平成26年1月6日～1月31日		
説明会・ワークショップ					
その他	担当課(まちづくり推進課)にて原案閲覧	平成26年1月6日～1月31日	平成26年1月6日～1月31日		

住民の意見	<p>・今回の事業により、ハード面は充実し一時的に人が増えているように見えるが、ソフト面も充実させていかないと効果の増加や継続は難しいのではないか。</p>
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	増山 正明 足利工業大学 工学部 主任教授	第1回 平成25年12月17日 第2回 平成26年2月25日	建設部まちづくり推進課	大田原市都市再生整備計画事業評価委員会運営要綱	独自に設置
その他の委員	蛭田 勇 蛭田勇建築研究室 岡野 繁雄 大田原市商店連盟会長 福島 初夫 大久保町地区自治会長 田代 一夫 寺町地区自治会長 室井 光昭 上町地区自治会長 車田 正信 荒町地区自治会長 小倉 正敏 仲町地区自治会長 本堂 敏雄 下町地区自治会長 前島 恒夫 栄町地区自治会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・指標3「避難場所までの到達時間」(当初:「避難所までの到達時間」)、その他数値指標2「中心市街地における避難場所周辺区域の拡大」(当初:「中心市街地における一時避難地の誘致圏カバー率」)の方法書の変更(名称変更)について、承認が得られた。(反対意見なし)
	成果の評価	・指標2「空き店舗数の減少」の目標値は達成することができたが、成果が当初の目標へと反映されているとはあまり言えない。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・多目的公園整備は仮オープンした段階であるが多くの利用者もいることから、指標1「通行人数の増加」に貢献していると考えられるので、関連がない「ー」としていたが、「○もしくは△」として整理すべきである。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価シートの様式が難しく、分からない市民もいると感じた。 ・事後評価原案の公表方法については、特に意見もなかったことから妥当であると認められた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・特に意見もなかったことから、事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・「トコトコ大田原」は賑わいをみせていることから、「トコトコ大田原」を起点に、周辺施設への(中心市街地内の)回遊を高める必要がある。 ・空き店舗数の減少や中心市街地の賑わい創出のため、引き続き「大田原市起業再出発支援事業」を実施してほしい。 ・多目的公園を利用した防災講習会や新避難場所(多目的公園)の周知など、市民の防災意識向上や多目的公園がどの程度活用できるのか把握したい。 ・今後のまちづくり方策にて、想定される事業については、着実に実行してほしい。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・その他関連事業の「屋台会館」事業について、将来的に屋台会館が整備できるよう検討してほしい。 ・大田原市中心市街地活性化基本計画について、2期計画を検討してほしい。 ・繁華街を活性化していきたい。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・特に意見もなかったことから、今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--